

平成25年5月28日(火)
駒沢中学校 研究推進委員会

第二回校内研修会

1 目的 生徒の学習意欲と学力向上のために、効果的なICT機器の活用方法を、
研究授業の流れと生徒の観察を通して考え、各自の今後の授業にいかす。

2 日時 5月28日(火) 13:30~16:00

3 研究授業実施者および実施場所

学級	教科	授業者	場所	学級	教科	授業者	場所
1 A	音楽	柳田	音楽室	2 C	家庭	小嶋	2 C 教室
1 B	社会	平山	1 B 教室	2 D	美術	坂本 石野	美術室
1 C D	英語(少)	片桐	1 D 教室	3 A B	数学(少)	遠藤	3 B 教室
1 C D	英語(少)	黒岩	英語教室	3 A B	数学(少)	田村	3 A 教室
1 C D	英語(少)	相佐	1 C 教室	3 A B	数学(少)	西川	数学 教室 3
1 C D	英語(個)	西巻	聞こえ				
2 A B	理科(TT)	市川 横山	2 B 教室	3 C	国語(少)	山口	第2視 聴覚室
2 A B	理科	栗山	2 A 教室	3 C	国語(少)	小西	3 C 教室

(少)は少人数 (TT)はティームティーチング (個)は個別授業

4 司会進行 研究推進委員長

5 研修会の流れ

13:30~14:20 研究授業(火曜日の⑥)

14:35~16:00 研究協議会(第1視聴覚室) 司会:西川 記録:栗山

(1)加藤校長先生より

(2)授業者より

(3)協議

(4)指導・助言 信州大学附属教育実践総合センター長
教授 東原義訓先生

(5)本田副校長先生より

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 柳 田 拓 史

1 教科

音楽

2 単元名

「春」第1楽章 「和声と創意の試み」第1集「四季」から

3 本時の目標

「春」の第1楽章を聴き、曲想の変化とソネットとのかかわりについて考えながら、聴くことができる。

4 使用するICT

デジタル教科書

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか（200字程度）

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

音を楽譜と対比して聴くことができるため、教科書を個々で見ているよりも、より確実にソネット（短い詩）と音楽との関わりについて理解できる。

楽器の説明についても、画像を示しているので、全員が同時に見ることにより、スムーズな理解につながる。

第1学年 音楽 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年 組	1年A組	活用するICT	デジタル教科書 パソコン	授業者	柳田 拓史
単元の目標	(1) 音楽の雰囲気や曲想の変化を感じ取り、聴くことができる。 (2) ソネットを手がかりに、情景を思い浮かべ、各場面の変化を感じ取ることができる。 (3) 弦楽合奏のそれぞれの楽器の特徴を感じ取ることができる。				
本時の目標	「春」の第一楽章を聴き、曲想の変化とソネットとのかかわりについて、考えながら聴くことができる。				
目標とICT	デジタル教科書を使用し、それぞれのソネットの部分の音楽を聴かせることにより、曲想の変化やソネットとのかかわりの理解を深める。(A)				
言語活動(B)	グループで、音楽からどのような場面なのかを話し合い、発表することができる。 グループの中で、自分の考えを説明し、伝えることができる。				

	学習内容・活動	学習指導・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導 入	1 イタリアについて知る。	1 ワークシートに自分なりに知っていることを書き込み発表させる。	デジタル教科書 1 地図を提示する 日本とイタリアの位置関係(Ⅱ)	○画面を見ながら、イタリアについて関心をもつ。 ◎自ら進んで取り組む。 (関心・意欲・態度)
	2 ヲイヴァルディについて知る。	2 作曲家の概要を説明し、ポイントをワークシートに記入させる。	2 ヲイヴァルディの写真を提示する(Ⅱ)	○ポイントを聞き、しっかり記入しようとする。 ◎楽器の種類や、形状について関心をもつ。 (関心・意欲・態度)
	3 弦楽合奏について知る。	3 楽器について説明をし、ワークシートに記入させる。	3 合奏場面を提示する 各楽器についてイメージをもつ(Ⅱ)	
展 開	4 「春」の第1楽章全体を聴く。	4 第一印象をワークシートに記入させる。	4 CDを聴く。	○第一印象をしっかりと記入しようとする。 ◎本時の課題に意欲的に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度)
	5 この曲が5つの場面から成り立っていることを知る。	5 5つの場面の音楽を分けて聴かせる。	デジタル教科書 5 5つのソネットはそれぞれに音楽を添える。(Ⅱ)	◎曲想の違いを感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)
	6 各場面についての情景を考える。	6 自分の考えた情景をワークシートに記入し、グループで話し合う。		◎自分の考えをグループ内で積極的に発表することができる。 (関心・意欲・態度) (鑑賞の能力)
	7 再び、各場面の音楽を聴く。	7 自分たちで考えた情景をグループで発表させる。	デジタル教科書 7 実際にソネットを見ながら各場面を聴く。(Ⅱ)	○グループの意見をクラスにしっかりと発表しようとする。
ま と め	8 各場面のソネットを知る。	8 ワークシートに自分たちの考えた情景と対比できるように、ソネットを記入させる。		○自分たちの考えた情景と、実際のソネットの内容を対比することができる。
	9 「春」第1楽章全体を再び聴く。	9 ワークシートに感想を記入させる。		◎自ら進んで取り組み、曲が表現する情景や楽器について記入することができる。 (関心・意欲・態度) (鑑賞の能力)
評 価	①情景を思い浮かべ、曲想の変化を感じ取り、聴くことができたか。(A) ②自分の考えや、意見を自らの言葉で発表することができたか。(B) ③演奏されている楽器について理解することができたか。(A)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 平山 恵子

1 教科

社会

2 単元名

文明のおこりと日本のはじまり「大河が生んだ文明」

3 本時の目標

四大文明の特色と共通点を理解させ、わかりやすく発表させる。

4 使用するICT

テレビ、実物投影機

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

・古代の人々の生活を描いた絵（資料集）を拡大して見せることによって興味・関心を高める。

・自分たちの班で見つけた内容を、テレビを活用して説明することによって発表する力をつける。

また、内容をクラス全体で共有し、多様な見方を身につける。

第1学年 社会 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	1B	活用する ICT	テレビ、実物投影機	授業者	平山 恵子
単元の目標	文明のおこりと日本のはじまり・・・世界各地で文明が起こり、その中で、東アジアの文化の影響を受けながら日本の国家が形成された様子を理解する。				
本時の目標	四大文明の特色と共通点を理解し、発表する。				
目標と ICT	A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
言語活動(B)	資料集の写真を実物投影機で拡大して使い、各自の見つけた文明の特色を伝える。(B)				
言語活動(B)	グループで意見を出し合い、全体に発表する。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1. 四大文明の共通点を確認する	・前回のプリントを見て、発表する。		◎自ら進んで取り組む(関心・意欲)
展開	1. 四大文明の特色をまとめる(20分) 2. 発表する(20分) 3. 教員のまとめと講評を聞く	1-1. 4人ずつの8班に分け、各文明を分担する。 1-2. 資料集の絵や写真を見ながら、それぞれの文明がどんなものか、調べる。 1-3. 発表用シートに記入し、発表者と実物投影機の操作者を決める。 2-1. 各班2分で発表する。他の生徒はワークシートに記入する。 3-1. 教員が学習した内容と発表(表現)について講評する。	実物投影機 2-1. 資料集の写真・絵を映す。	◎基本的な社会的事象をおさえているか。(知識・理解) ◎エジプト文明・・・ピラミッド、白い服、神官などに注目して説明しようとする。 ◎メソポタミア文明・・・家畜、ハンムラビ法典に注目して説明しようとする。 ◎インダス文明・・・モヘンジョダロの遺跡に注目して説明しようとする。 ◎中国文明・・・印欧の墓、甲骨文字に注目して説明しようとする。(知識・理解) ◎資料集の説明文ではなく、絵や写真の一次資料から読み取ることができる。 (資料活用) ◎資料集の絵や写真を使って、わかりやすく説明できる。(表現力)
まとめ	1. 意見や考えを記入する。	1. ワークシートに意見や考えを記入する。		◎自ら進んで取り組む(関心・意欲)
評価	・一次資料から文明の特色を読み取ることができたか。(B) ・他の班の発表から、多面的な、見方を身につけることができたか。(B)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 片桐 雄樹

1 教科

英語

2 単元名

Program 3 Section 1 一般動詞

3 本時の目標

一般動詞を含む英文を読み、自分の好きなことや、ふだんすることを話せるようにする。

4 使用するICT

パソコン、デジタル教科書、プレゼンテーションソフト

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか（200字程度）

- 使わないときと使うときでここが違う
- 学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分
- 教科書のこの部分 など

プレゼンテーションソフトを使って文法の説明をする。黒板では表すことができない色分けやアニメーション、イラスト等を用いて、英文法のしくみをわかりやすく示す。本文の音読練習時にはデジタル教科書を用いる。英語のスク립トを表示させたり消したりすることができるので、生徒の能力の実態に合わせて対応することができる。音声で流したいところを部分的に再生する機能を利用して生徒にリピートさせることができる。

第1学年 英語 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	1年C・D組	活用する ICT	パソコン・デジタル教科書・プレゼンテーションソフト・CDプレーヤ	授業者	片桐雄樹
単元の目標	- 自分の好きなことや、ふだんすることを話せるようにする。 - 相手の好きなものについてたずねたり答えたり、自分の好きでないものを話したりできるようにする。				
本時の目標	- 一般動詞を含む英文を読み、自分の好きなことや、ふだんすることを話せるようにする。 - 自己紹介を聞いてわかるようにする。 A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	- 提示した新出文型を理解し、それを活用して表現する。(A)(B) - プレゼンテーションソフトの写真やイラストを用いた自己紹介を聞き、内容を理解する。(A)				
言語活動 (B)	- 自分の好きなことやふだんすることを相手にわかるように発表する。 - 自己紹介を聞き、内容を理解する。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	- 英語であいさつをする。日付や天気を聞く。 - 英語の歌をうたう。	- 明るくはっきりと発音し、答えやすい雰囲気をつくる。 - 声を出して歌うよう指示する。	CDプレーヤ 歌を流す。	○単語や発音がわからない。 ◎しっかり聞いているか。(関心・意欲)
展開	- 一般動詞の説明を行う。 - 自分の好きなことやふだんすることを発表する。 - 有名人などの自己紹介を聞き、誰の自己紹介か考える。 - 教科書のリスニング練習をやる。	- わかりやすく日本語との文法の違いを説明する。 - 間違いを恐れずに発表できるよう、温かい雰囲気をつくる。適宜発音指導をする。 - 誰の自己紹介かわかったら、Are you ~? でたずねる。 - 静かに聞くよう指示する。	プレゼンテーションソフト 一般動詞likeや playの使い方を説明する。 プレゼンテーションソフト 写真やイラストをスクリーンに提示する。 デジタル教科書 該当ページを提示し、音声流す。	◎集中して説明をきいているか。(関心・意欲) ○声が小さい。 ○発音の間違いを恐れる。 ◎大きな声で発表しているか。 ◎正しい文法・発音で発表しているか。(表現) ○どのように英語でたずねればよいか。 ◎集中して英語を聞き、発言しようとしているか。(表現) ○英語が聞き取れない。 ◎集中して音声を聞いているか。(関心・意欲)
まとめ	- 要点をノートに写す。 - 自分の好きなことなどを作文する。	正しく書けているか。	プレゼンテーションソフト 要点をスクリーンに提示する。	◎正しく書き取れているか。(思考・表現)
評価	◎自分の好きなことやふだんすることを話せたか。(B) ◎自己紹介を聞いて内容を理解できたか。(A)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日(火)

授業者 黒岩 理恵

1 教科 英語

2 単元名

PROGRAM 3 Section 1

3 本時の目標

一般動詞 like、play などを使った文を読む。

like、play などの一般動詞を使って、自己紹介をする。

4 使用するICT

プロジェクター、デジタル教科書(DT)、パソコン

5 ICTを活用して何をクリア(達成)するか(200字程度)

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

1 教科書本文の導入

・ピクチャー・チャートを見せながら英文を聞かせる。

○スクリーン1カ所に視線を集中させて英語を聞かせることができる。

2 音読練習

・スクリーンを見ながら音読させる。

○読む早さをコントロールしながら読ませることができる。

3 暗唱

・徐々に文字を消しながら、最後は文字なしで言わせる。

○一斉に読ませながら、徐々に暗唱につなげることができる。

4 表現活動

・スクリーンにワークシートを映して説明する。

○どこに何を書くのか、今何をするのかを視覚を通して理解させることができる。

第1学年 英語 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	1年CD組	活用する ICT	パソコン、デジタル教科書、自作コンテンツ	授業者	黒岩 理恵
単元の目標	①一般動詞を使って自己紹介ができるようにする。 ②相手の好きなものや日常することについて質問したり、答えられるようにする。 ③一般動詞の用法を正しく身につける。				
本時の目標	(1)一般動詞 like, play などを使った文を正しく音読することができる。 (2)like, play などを使って自己紹介をすることができる。 A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	(1)教科書本文の音読練習で、デジタル教科書を使って正しく音読できるようにする。(A) (2)自己紹介のモデルを示し、生徒が自分のことにおきかえて言いやすくする。(B)				
言語活動(B)	音読、自己紹介スピーチを行う。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
復習	1 like, play を使った文の復習	「おぼえよう」を音読、暗唱する	デジタル教科書	○集中して取り組むことができる ◎暗唱することができる
導入	2 マイクとユキのおしゃべりを聞く 3 本文の内容紹介 4 カナダクイズ	マイクとユキを確認するCDを聞く Oral Introduction Oral Interaction クイズに答える	デジタル教科書 (ピクチャーチャート)	○教科書の登場人物に興味をもって聞く ◎リスニングポイントを理解できる。 ○カナダに興味・関心をもつ
展開	5 教科書本文を聞く 6 内容理解 7 新出単語の導入 8 本文の音読 9 自己紹介	CDを聞く 教科書を見ながら本文を聞く 本文の意味を確認する 発音と意味を確認する練習する Chorus Reading Part Reading Buzz Reading Read and Look-up 暗唱 モデルを示す。 自己紹介文をワークシートに書く。 自己紹介文の音読練習。 ペアで自己紹介をする。	デジタル教科書 デジタル教科書 自作コンテンツ	○文字と音を一致させる ◎一般動詞を使った英文の意味を正しく理解できる。 ◎新出単語を覚える。 ◎スラスラ読める。 ◎文字を見ないで、絵を見ながら英語を言うことができる。 ○自己紹介のやり方を理解する。 ◎英語らしい発音、アイコンタクト
まとめ	10 スピーチコンテストの予告 11 課題を与える	スピーチの準備をする 本文を25回音読する。 授業ノートに本文を書く。		
評価	教科書本文の内容を理解している。(A) 積極的に自己紹介をしようとしている。(B)			

平成 2 5 年度 第二回校内研修会資料

授業日 5 月 2 8 日 (火)

授業者 相佐 妃沙乃

1 教 科

英語

2 単元名

Program2 Section2 be 動詞 (肯定・疑問・否定)

3 本時の目標

相手がどんな人かたずねる。

- ・ 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
- ・ be 動詞の用法を正しく身につけ、運用する。

4 使用する I C T

デジタル教科書 テレビ パソコン プレゼンテーションソフト

5 I C T を活用して何をクリア (達成) するか (2 0 0 字程度)

- 使わないときと使うときでここが違う
- 学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分
- 教科書のこの部分 など

デジタル教科書を使い、英文に書き込みをする。言葉の指示だけでは取りこぼしがちなところを ICT で提示することにより、生徒に確実に理解させることが容易になる。英文の意味を TV に映し出しておくことで、一つ一つの意味を説明する時間が省略できる。単語の練習時に画像を提示することにより、単語のイメージが視覚的にも定着し、覚えやすくなると考えられる。

第1学年 英語 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	1年CD組	活用する ICT	デジタル教科書、自作コンテンツ テレビ、パソコン	授業者	相佐 妃沙乃
単元の目標	(1)英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 (2)be動詞の用法を正しく身につけ、運用する。				
本時の目標	①情報を伝えあう。 ②相手がどんな人かたずねる。 A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	デジタル教科書を利用して、重要表現を確実に意識させる。(A) 単語のイメージをつかみやすくなるように自作コンテンツを利用する。(A)				
言語活動(B)	相手に質問をし、情報を得ることができる。自分のことを相手に伝えることができる。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 前時の復習 前の時間に学んだことを確認する。	1 新出単語を発音する。 日本語から英語にする。 本文の単語を自分の名前に入れ替えて、練習する。	デジタル教科書	○画面に映し出された単語に関心を持つ。 ○本文の会話を自分の会話として作り直す。 ◎ペアワークに積極的に取り組む(関心・意欲・態度)
展開	2 教科書の「おぼえよう！」をペアで音読する。	2 対話文を聞き、発音する。	デジタル教科書	○「おぼえよう」の対話文を音読練習する。 ◎積極的に発音練習に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
	3 「聞いてみよう」でリスニング問題を解く。	3 英文を聞き、問題を解く。	デジタル教科書	○英文を聞き、問題を解く。 ◎集中して英語を聞いている。(関心・意欲・態度)
	4 「言ってみよう」を使い、ペアで対話活動をする。	4 ペアでQ&Aを行う。		◎正確に聞き取ることができる。(理解の能力)
	5 「使ってみよう」でグループでスポーツについての対話活動をする。	5 スポーツの英単語の発音練習をする。	自作コンテンツ	○クイズの雰囲気、会話を楽しむ。 ◎正確に答えることができる。(表現の能力)
	6 新出単語の意味と発音を確認する。	6 新出単語を正確に読む。意味を理解する。	デジタル教科書	○画面に映ったスポーツの単語を音読練習する。 ◎積極的に発音練習に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
	7 文章を書く練習をする。	7 副教材を使い、文章、単語を書く練習をする。		◎正確に発音することができる(表現の能力)
	8 いろいろな動作を表す表現を学ぶ	8 アクションカルタを使い、様々な動作を表す表現のカルタ取りをする。 英語を聞いて、どの動作を表しているのかを確認する。		◎習得した文法を使い、口語で情報交換ができる。(表現の能力)
				○画面の単語を発音する。 ○画面の単語の意味をノートに写す。 ◎積極的に発音練習に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
まとめ	9 次回の連絡と宿題を伝える。			◎単語の意味をきちんとノートに書き写している(関心・意欲・態度)
評価	①「あなたは～ですか。」「私は～ではありません。」という表現を使って情報交換ができた。(A) (B) ②動作を表す表現を聞いて、その動作を認識することができた。(A)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日(火)

授業者 市川 淳子

1 教科

理科

2 単元名

心臓と血液の循環

3 本時の目標

ヒトの体の血液循環のおよその経路を知り、動脈血と静脈血の区別をする。

他の脊椎動物の心臓のつくりを知る。

4 使用するICT

テレビ、実物投影機

5 ICTを活用して何をクリア(達成)するか(200字程度)

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

クラスの生徒の中には、聴覚から情報を取り入れること(理解すること)が苦手だが、視覚(ICT)からだと情報を取り入れやすい(理解しやすい)生徒がいる。また、その逆の生徒もいる。両タイプの生徒に対応するためには、聴覚・視覚双方の刺激を同時に使用するのの効果的である。また、一般的な生徒にとっても理解力を深めるためにも ICT を活用するのは有効である。

血液の循環経路などの図を拡大して、正しく経路を記入させたり、自分が正しく理解したかどうかの確認をさせたりする。また、教科書などを拡大して提示することは、授業への興味や関心を高めたり、思考力や理解力を深めたりする効果があると考えられる。

第2学年 理科学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	2年B組	活用する ICT	実物投影機	授業者	市川淳子T1 横山茂樹T2
単元の目標	(1)ヒトの呼吸器官のしくみとはたらきを他の脊椎動物と比較しながら理解する。 (2)けつえきの循環について観察を行い、動物の体にはいろいろな物質を運搬するしくみがあることを、血液の成分と関連づけてとらえる。 (3)消化や吸収についての観察・実験を行い、動物の体には必要な物質を取り入れるしくみや不要な物質を排出するしくみがあることを、観察・実験の結果と関連づけてとらえる。				
本時の目標	(1)ヒトの体の血液循環のおよその経路を知り、動脈血と静脈血の区別をする。 (2)他の脊椎動物の心臓のおよそのつくりをする。				
	A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	実物投影機を活用して、ワークシートを映し、血液循環の経路を確認する。(A)(C) 同様にいろいろな動物の血液循環のワークシートを映し、生徒が自分の言葉で説明し、伝えやすいようにする。(B)				
言語活動	教師の説明や、ヒトの体の血液循環を参考にして、他の脊椎動物の心臓のつくりについて、自分の言葉で説明し、発表する。(B)				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 前回の授業の復習をする。	1 ヒトの心臓のつくり・流れている血液の種類を確認する。	実物投影機 1 ヒトの心臓の図を映し出す。	◎自ら進んで発表する。 (関心・意欲・態度)
展開	2 前回血液循環についてノートにまとめた内容を血液循環経路図に色分けして記入させる。 ○動脈血を赤色、静脈血を黒色でぬりつぶす。 3 他の動物の心臓のつくりについて考える。(記入用紙)	2 説明を聞き、各自のノートを見ながら作業をすすめる。 ○ほぼ全員ができたなら、確認する。 3 ヒトの心臓について説明した内容をまとめる。 ○ヒト以外の心臓のつくりについて血液循環を考えながらまとめる。	実物投影機 2 ヒトの血液循環経路図を映し出す。 実物投影機 3 他の動物の心臓のつくりの図を映し出す。	◎作業に意欲的に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) ○自分の考えたことをプリントにまとめる。 ◎発表の内容に関心が高まる。 ◎自分の考えを発表できた。 (科学的な思考・表現) ◎本時の内容を理解できた。 (知識・理解)
まとめ	4 心臓のつくりと動物の関係をまとめる。	4 心臓のつくりは「下等だから簡単」ではなく、生活場所や活動のしかた、呼吸方法から考えて、「それぞれ十分機能を果たしている」ことも理解させる。 ○進化の過程がうかがえる。		○発表の内容に関心が高まる。 ◎自分の考えを発表できた。 (科学的な思考・表現) ◎本時の内容から発展的な内容も理解できた。 (知識・理解)
評価	①動脈血と静脈血の経路の確認ができたか。(A)(C) ②いろいろな動物の血液循環について考え、まとめることができたか。(B)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 栗山 幸大

1 教科

理科

2 単元名

単元1 物質の成り立ち

3 本時の目標

今まで、実験してきた化学変化について、化学反応式で表すことができるようになる。

4 使用するICT

実物投影機

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか（200字程度）

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

物質の中の原子の安定、不安定という様子をモデルを使って表す。そのモデル図を用いて、アニメーションで物質の化学変化の様子を示す。

また、そのモデルの数から、化学式および化学反応式を導き出し、化学反応式の書き方を理解する。

今回の授業で、ICT機器を用いない場合では、生徒間で、物質の原子の挙動についての理解に差が出るものと考えられる。

世田谷区教育要領では、中学校第一分野の（4）化学変化と原子・分子のイー（ア）「モデルで説明できること」に該当する。

第2学年理科学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	2年A組	活用する ICT	実物投影機、PC(デジタル教科書)	授業者	栗山 幸大
単元の目標	化学変化についての観察、実験を通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、これらの事象を原子、分子のモデルと関連づけてみる見方や考え方を養う。				
本時の目標	化学反応の様子を、モデルを使って理解することができる。 化学反応の様子を、化学反応式で表すことができる。 A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	化学変化の様子をモデルを用いたアニメーションで提示し、化学変化の理解を深める。(A)				
言語活動	なし				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	○小テスト	・今まで学習してきた、元素記号、化学式、化学モデルについて、答える。	実物投影機 ・小テストの解答確認の際に模範解答を写す。(A)	○テストに取り組む。 ◎テストの出来栄を評価し、正答率の低い問題を次回の小テストに出題する。
展開	○化学変化の復習 ・水の電気分解	・水の電気分解の実験結果を復習する。 ・水(H ₂ O)から、約2:1の割合で水素(H ₂)と酸素(O ₂)が発生していたことを確認する。		○水の電気分解で発生した気体(酸素、水素)について、発問に答える。 ○それぞれの気体が発生した電極、発生比率について答える。 ◎水の電気分解について、知識の定着ができていないか確認する。(A)
	○化学変化の様子について学習する。 ・化学変化の前後の物質の様子について、モデルを用いて説明する。 ○化学変化の様子を化学式を用いて表す。 ・化学変化の様子をモデルを用いて示し、それぞれの原子、分子の数を合わせることで化学反応式の書き方を学習する。	・デジタル教科書のモデル用いて、水分子が水素、酸素分子に分解される様子を実際に動かして確認する。 ・分子モデルのアニメーションを活用して、化学変化をしているときの、原子の数や、様子を、数の総数を化学変化の前後で合わせる必要があることを認識させる。	デジタル教科書 ・水分子モデルに含まれている、水素原子、酸素原子それぞれのモデルを操作して、反応の前後の物質の様子を視覚から理解する。(A) デジタル教科書 ・分子モデルを用いた化学変化の様子から、変化前後で原子の数を合わせること、その数を入れたら式の中に入れることを理解する。(A)	○分子モデルの原子が動くことで、物質の分解について、イメージをする。 ○アニメーションの様子から、原子の数がはじめは合っていないことに気づく。 ○反応後の分子モデルをみたときに、原子の数を合わせるために、もとの分子モデルの数を増やす必要があることに気づく。 ○化学反応式では、それぞれの原子、分子の数が式の中に入っていることに気づく。 ◎化学反応式の中の数字の意味を理解することができる。(A)
まとめ	○化学変化の様子を化学反応式で書く。	・水の電気分解以外の化学変化について、化学反応式で表す。		○化学式、化学反応式について、答える。 ◎化学変化から、化学反応式をたてることができる。(A)
評価	化学反応式を成立させるための、原子、分子の比率を理解し、示すことができる。(A)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 小嶋 紗代子

1 教科

家庭

2 単元名

安全に住むためにはどうしたらよいだろう

3 本時の目標

地震や火災に備えた住まい方について知る

4 使用するICT

テレビ パソコン デジタル教科書

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか（200字程度）

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

デジタル教科書にある地震対策、住宅火災の発火原因の動画を再生する。実験映像を見ることにより、体験したことがないことでも自身に置き換えて考えることができる。

その結果、災害時の対策、日ごろの住まい方をより良くするためにどうしたらよいか、考えようとする気持ちが芽生え、授業への関心が高まると考えられる。

班で災害対策を話し合い、その後、班ごとに発表をする。

第2学年 家庭 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	2年C組	活用する ICT	デジタル教科書	授業者	小嶋 紗代子
単元の目標	安全な住まい方の工夫を考えることができる。				
本時の目標	地震や火災に備えた住まい方について知る。				
	A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	地震のときの実験映像に見ることによって対策を考えさせ、疑似体験させる。				
言語活動(B)	災害対策について話し合い、発表させる。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	日本に多い自然災害にはどのようなものがあるか。			○台風 地震 津波 洪水 落雷 火山の噴火
展開	・震災対策について話し合って考える。 ・災害時に備えておきたいものをまとめる。 ・火災対策について知る。火災による死者の半数以上が高齢者であることを気付かせる。 ・火災の原因について対策をまとめる。 ・地域での防災の取り組みを知る。	・災害対策にについての、家庭での取り組みを話し合い、発表する。 ・災害時に何が必要か考える。 ・住宅用火災警報器の設置状況を把握する。 ・ストーブ、こんろ、電気機器について対策を話し合いまとめる。 ・世田谷区にも防災マップがあり、井戸の場所、地震の揺れやすさ、危険度が記載されていることを知る。	デジタル教科書 ・阪神・淡路大震災や東日本大震災の被害を受けた住まいの写真を映す。(C) ・住まいの中の震災対策の動画を再生する。(A) ・安全の工夫の実習例を示す。(A) ・グラフを映す。(A) ・住宅火災の発火源別死者数の動画を再生する。(A) ・墨田区の防災対策の動画を再生する。(A)	○各家庭で行っている震災対策を話し合う。 ・出入り口に物を置かない。 ・家具を固定する。 ◎話し合いで意見を述べることができたか。(関心・意欲) ○食料、水、生活用品、衣類等 ○75歳以上の高齢者が半数を占めていることに気付く。 ◎グラフから読み取ることができたか。(思考・判断) ○ストーブやこんろの近くに燃えやすいものを置かない。コンセントの周りのほこりを掃除する。
まとめ	・家族が安全に住むために自分の住まいを点検し災害に備えた安全対策を考える。	・住まい方の改善すべき場所をノートにまとめる。		○自室の危険性を考え対策を考える。 ◎学習した内容をふまえてまとめることができたか。(思考・表現)
評価	安全な住まい方を理解する。(A) 安全対策についての工夫を考えることができる。(B)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日(火)

授業者 坂本 佳苗

1 教科

美術

2 単元名

コラージュをつかったポスター制作

3 本時の目標

色塗りを仕上げ、コラージュをする。

コラージュを効果的につかう。

4 使用するICT

・ビデオカメラ、プロジェクター、実物投影機

5 ICTを活用して何をクリア(達成)するか(200字程度)

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

○実物投影機を使用して、技法の方法や注意点を、全体に見せることができる。

○手元の細かな動きを実演して見せることができる。

○生徒の参考作品を見せ、よいところ、もっとがんばれるところなどを見せることができる。

第2学年 美術 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	2年D組	活用する ICT	ビデオカメラ、プロジェクター、実物投影機	授業者	坂本 佳苗
単元の目標	①広告や宣伝などのポスターが果たす社会的役割について理解し、関心を高める。 ②相手に伝わりやすい表現や構図を考える。 ③モダンテクニックやコラージュの技法から、絵の具の使い方などの表現の幅を広げる。				
本時の目標	・色塗りを仕上げ、コラージュをする。 ・コラージュを効果的につかう。 A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	実物投影機で参考作品を見せて、コラージュの技法がどのようなものか、明確に伝える。(A) プロジェクターで技法や着色をどこまですればよい表現なのかを伝える。(A)				
言語活動(B)	なし				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 制作の手順を確認する。 2 色塗り、コラージュの留意点を把握する。	1 進行度合いの確認をする。 2 制作手順と色塗りの仕上げるポイント、コラージュのポイントを説明する	実物投影機 2 コラージュの見本の提示と注意点を説明する。(A)	2 画面に映されたコラージュ作品に注目し、技法について理解を深める。 ◎技法を理解できたか。(技能)
展開	3 色塗りを仕上げる。 4 モダンテクニックや準備した材料を、コラージュする。 5 録画したビデオで生徒の参考作品を鑑賞する。	3 下描きや、テーマに合わせて配色、絵の具の濃淡を工夫させ、端まで丁寧に着色させる。 ○机間指導する。 4 コラージュ表現は糊で端まで貼ったり、貼り合わせる向きなどを考えさせる声かけをする。 5 どのような表現であるか、またどんな点に気が付くか、動画をみながら説明し共有する。	ビデオカメラ 3 生徒の手元や進行具合を撮影する。(A) プロジェクター 5 次回への学習の見通しを表示する。(A)	3 下描きと見比べながら、着色する。 ○表現に合わせて、下描きと変更したい箇所を見つける。 4 モダンテクニックや材料をどのようにコラージュにするか、考える。 ○班でどのような表現にしたか教え合う。 ◎自分の表現をわかりやすく伝えることができたか。(構想) 5 映しだされた画面に注目し、自作と見比べながら、次回への課題点を見つける。 ◎よさや美しさを感じ取れたか。(鑑賞)
まとめ	6 片づけをする。 7 次回の内容を把握する。	6 片づけを指示する 7 次回の持ち物、期限について説明する。		
評価	コラージュを効果的に使い制作できたか。(A)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日(火)

授業者 田村真治 遠藤晴久 西川 慶介

1 教科

数 学

2 単元名

いろいろな因数分解

3 本時の目標

- (1) 分配法則や公式を使って、いろいろな多項式を因数分解する。
- (2) 手際よく因数分解する方法を考え、ことばや式で表すことができる。

4 使用するICT

テレビ 実物投影機 パソコン デジタル教科書

5 ICTを活用して何をクリア(達成)するか(200字程度)

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

本日の課題を実物投影機を用いて大きく映し出し、興味をもたせる。
生徒が作成したワークシートを実物投影機を用いて大きく映し出し、計算の順序で注意するところや、読み取らせたい部分、気づかせたい部分を大きく映し、理解を深める。
計算式や図を大きく提示して説明することで、実際の説明だけではわかりにくいものをICTで拡大提示することによって、視覚的にわかりやすくイメージがわきやすくなる。その結果、生徒の学習意欲が高まり、一緒にやってみようとする気持ちが生まれる。そのことが授業への集中につながり、思考や理解を深めさせる効果があると考えられる。

第3学年 数学 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	3年AB組	活用する ICT	実物投影機、パソコン デジタル教科書、自作コンテンツ	授業者	遠藤 田村 西川
単元の目標	(1) 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式でわる除法の計算をすることができる。 (2) 簡単な1次式の乗法の計算及び公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。 (3) 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することができる。				
本時の目標	(1) 分配法則や公式を使って、いろいろな多項式を因数分解する。 (2) 手際よく因数分解する方法を考え、ことばや式で表すことができる。				
目標と ICT	A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力 C 主体的に学習する態度				
言語活動	グループで話し合い、周りから出てきた意見を参考に自分の考えを振り返る。(C) グループの中で、自分の考えを説明し、伝え合うことができる。(B)				

	学習内容・活動	学習指導・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 小テストを解く 2 復習問題を解く ○これまで学んだ公式を使用して因数分解する。 3 答え合わせを行う ○復習範囲を確認する。	1 学習ドリルを使用する ○自分の力で問題を解く 2 問題を提示する 3 公式を確認する ○乗法公式の逆を使用して いるか確認する。	デジタル教科書 自作コンテンツ 2 問題を提示する ○4パターンの問題 3 公式を提示する ○乗法公式の逆を映し出す。	◎自ら進んで取り組む。 (関心・意欲・態度) ○画面に映しだされた、式に関心をもつ。 ◎問題を把握し、答えを求めようとする。 (関心・意欲・態度) ○因数分解することに関心が高まる ◎公式を使用している。(知識・理解)
展開	4 問題①②を提示する ①共通因数aをつけた式 ②共通因数が多項式 5 問題①②に取り組む ○考え方を記入する ○自力解決に取り組む、自分の考えをもつ。 6 グループで話し合う ○グループで自分の考えを深めたり、新しい考え方に気づいたりする。 7 グループで発表をする 8 学習のまとめ ○分配法則や公式を使って手際よく因数分解をする。 9 問題を解く ○演習問題を解く P26 問8 P27 問9	4 共通因数を基準に考える ○今までに学習した公式には当てはまらないことに気づかせる 5 自力解決をさせる ○共通因数aをくりだすことに気づかせる 6 話し合った内容を発表できるようにまとめる ○全員が意見を言い合える 少人数グループにする 7 グループで話し合った内容をまとめる 8 ことばを使って表現する ○計算の過程でポイントや手順をことばで表現する。 9 自分の力で問題を解く ○公式を使用して、手際よく問題を解く。	自作コンテンツ 4多項式を映し出す(C) 5多項式を映し出す(C) 実物投影機 6生徒のワークシートを映し出す。(B) (ホワイトボードにまとめる) 実物投影機 7ワークシートを映し、生徒が自分の言葉で説明し伝えやすいようにする。(B) 8わかりやすく映し出す(C) ①共通因数a ②共通因数の多項式 9生徒のノートを映し出す。	○画面に映しだされた多項式に関心をもつ。 ◎本時の課題に意欲的に臨んでいるか。 (関心・意欲・態度) ◎自分の考えを式やことばで表すことができる。(見方や考え方) ○自分の考えをグループに伝える。 ◎グループの中で、自分の考えを説明し、伝え合うことができる。(見方や考え方) ◎グループで出てきた意見を理解しながら説明している。(見方や考え方) ◎共通因数に着目し分配法則や公式を使って因数分解ができる。 (見方や考え方) ○発表者の内容に関心が高まる。 ◎本時の内容をふり返って分かったことや大切だと思った考え方をまとめる。 (見方や考え方) ◎問題に意欲的に臨んでいる。 (関心・意欲・態度) ○自作コンテンツに興味が高まる。 ◎自分の考えを式やことばで表すことができる。 (見方や考え方)
まとめ	10 ふりかえる ○自己評価、感想を記入	10 自己評価、感想を記入させる		◎自ら進んで取り組む(関心・意欲・態度)
評価	①多項式の中に共通因数があることに気づくことができた。(C) ②分配法則や公式を使って、いろいろな多項式を手際よく因数分解することができた。(B) ③自分の考えを自分なりのことば(文章や発表など)で表現することができた。(B)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 山口 守俊

1 教科 国語

2 単元名 命の共鳴

（小説）「輝ける闇」 開高 健

3 本時の目標

- ・ 作品を黙読し、時代背景を把握する。
- ・ 自分の置かれている状況やアメリカ兵に対する登場人物の思いを表現から読みとる。

4 使用するICT

プロジェクター、パソコン

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか（200字程度）

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

現代の中学生にとって、太平洋戦争は遠い過去の話になっている。そこで、次の写真や動画を映像として見せ、当時の雰囲気を感じとらせるとともに、映像を見る前と見た後での読み取りの深まりを実感する。

○爆撃機による空襲、ジープに乗るアメリカ兵、木炭で走る代燃トラックなど
映像を見ることによって、作品の表現の意味の読み取りを深める契機とする。

【読み取る表現】

- ・ アメリカ兵のばら色の頬…「病気と違うやろか。」
- ・ 芋からアルコールを採って飛行機を飛ばせる愚劣と、玉砕したい憧れ
- ・ 帽子からうさぎを取り出すような政治は「敵」をつくり出せる。
- ・ 人（アメリカ兵）は笑いながら人を殺せるのだ。
- ・ 泥に沈んだ友人の声は異様なてのひらとなって私の頬を打った。

第3学年 国語 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	3年C組	活用する ICT	プロジェクター、パソコン	授業者	山口守俊
単元の目標	作品の時代背景、表現の細部を考え、作者の認識を捉える。				
本時の目標	作品を黙読し、時代背景を把握する。 自分の置かれている状況やアメリカ兵に対する登場人物の思いを表現から読みとる。 A 基礎的・基本的な知識・技能 思考力・判断力・表現力等 主体的に学習する態度				
目標と ICT	写真や動画を映像として見せ、当時の雰囲気を感じとらせるとともに、映像を見る前と見た後での読み取りの深まりを実感する。				
言語活動(B)	私・妹の視点から描かれた太平洋戦争やアメリカ兵に対する思いを表現から読みとる。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	太平洋戦争直後のようすが描かれていることに注意して黙読する。	最初の部分の範読を聞き、引き続き、漢字の読み方に注意しながら黙読する。		○内容がややわかりにくい。 ○時代背景がびんとこない。 ◎集中して黙読できているか。 ◎漢字の読みでどこにつまずいているか。(読むこと)
展開	語句の確認を行う。 私・妹の視点から描かれた太平洋戦争やアメリカ兵に対する思いを表現から読みとる。 写真や動画を見て、	読みや意味のわからない語句の確認させる。 作品の表現を通して、私・妹の視点からその時代やアメリカ兵に対する思いを読みとって、発表する。 アメリカ兵のばら色の頬…「病氣と違うやろか。」 芋からアルコールを採って飛行機を飛ばせる愚劣と、玉砕したい憧れは矛盾しなかった。 帽子からうさぎを取り出すように政治は「敵」を作り出せる。	パソコン プロジェクタ ○爆撃機による空襲 ○ジープに乗るアメリカ	行水 淡紅色 淡紅色 将校 氾濫 拠点 玉砕 昂進 機銃掃射 積乱雲 薄弱 肘 ○やけにアメリカ兵が健康的過ぎる。色が白いから、頬の赤さが目につくのではないか。 →食糧事情が日本と比べて、充実しているので、健康的なようす。 ○芋から採ったアルコールで飛行機が飛ばせるわけがない。どうせ、戦争に負けるなら早く負けてしまいたい。 →戦争が負けるという予感がする。いざとなったら、玉砕するのだと教育されていて、少しも疑問に思わない。 ○政治は敵に対する心をいくらでもあおることができる。 ◎意欲的に表現の意味を読みとろうとしたか。(読むこと)
まとめ	ノートにきちんと記録ができたか、確認する。	次回も表現の続きを行う。読み取りには幅があり答えは一つとは限らないことを確認する。		◎当時の時代背景の中でしか、わからない思いや考えを理解できたか。(読むこと、書くこと)
評価	◎作品の表現を通して、作者の思いを捉えることができたか。(A) 読み取りを深めることができたか。(B)			

平成25年度 第二回校内研修会資料

授業日 5月28日（火）

授業者 小西 宏子

1 教科

国語

2 単元名

世界に届ける言葉 パブリックスピーキング

3 本時の目標

スピーチの効果的なやり方を確認する。

スピーチ互いに発表し、互いに聞き合う。

4 使用するICT

実物投影機

5 ICTを活用して何をクリア（達成）するか（200字程度）

○使わないときと使うときでここが違う

○学習指導要領、世田谷区教育要領のこの部分

○教科書のこの部分 など

スピーチは、単に作文の朗読とは違い、人に伝わるように話すことが大切である。聞いている人は、スピーチをしている人の表情や動きを見ている。そこで、スピーチの様子を実物投影機で映し出すことで、前を向いて語りかけることの大切さを認識させたい。

また、スピーチの時のポイントを確認することで、少しずつ人の前で話すことに慣れるようにしていく。

第 3 学年 国語 学習指導案

駒の学び舎 駒沢中学校

年・組	3年C組	活用する ICT	実物投影機	授業者	小西 宏子
単元の目標	(1)相手の心に届く言葉を見つける。 (2)スピーチの方法を知る。				
本時の目標	スピーチの効果的なやり方を確認する。スピーチを互いに発表し、互いに聞き合う。 自分にとってスピーチの大切なポイントは何かを考える。				
	A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度				
目標と ICT	実物投影機を活用して、スピーチの時の基本的な姿勢を確認するとともに、ポイントを確認する。 (A)				
言語活動(B)	互いにスピーチをし、聞きあう。聞き取りメモに記入して、相互にアドバイスをし合う。				

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	スピーチのポイントについて写真を参考にして確認する。	・顔を上げて、相手に伝える話し方の確認をする。 ・聞き手の態度や、聞き取りメモ用紙についての記入の仕方を説明する。	実物投影機 写真を提示して確認する。(A)	・自ら進んで取り組む。(関心・意欲) ・画面に映し出された写真に興味をもち、ポイントを理解しようとしている。(関心・意欲)
展開	前もって準備してきた原稿を使って、スピーチを発表する。	・スピーチをする時の姿勢に注意する。しっかり顔をあげて、前を向いて話をする中で、相手に伝えることを理解する。 ・服装・態度・表情などが大きく影響することを説明する。 ・聞く方の態度も大切であることを、気づかせる。 ・(マナーを守る。人のスピーチから学んだことをメモしておく。) ・一人ずつのコメントをしっかりと記入する。	実物投影機 ビデオ撮影をしておく。(A)	◎準備してきた原稿をより効果的に表現しようとしている。(話すこと) ◎自分の考えをことばで的確に表現することができる。(話すこと) ◎発表者の内容に関心を高める。(関心・意欲) ◎本時の内容を振り返ってわかったことや大切だと思った考え方をまとめる。(書くこと) ◎一人ずつのコメントを記入することで、自分との違いを理解する。(思考)
まとめ	聞き取りメモ用紙を完成させる。	スピーチを聞いて、の感想を記入し、自分にとってスピーチの大切なポイントは何であったのかを考えさせる。		◎今日のスピーチの勉強に積極的に参加できた。(関心・意欲) ◎しっかり顔をあげて、話をすることができた。(話すこと) ◎自分らしいスピーチのポイントを考えることができた。(思考)
評価	スピーチの効果的なやり方を確認することができた。(A) 自分にとってスピーチの大切なポイントは何かを考えることができた。(B)			